

会 議 概 要 書

審議会等の名称	第1回 ながふじ学府一体校建設検討会
担当部課名	教育部教育総務課学府一体校推進室
会議の開催日時	平成29年8月31日(木) 18:00~20:00
会議の開催場所	豊田福祉センター3F大会議室
出席者(職・氏名)	委員:17名 事務局等:12名(内設計者4名)
議 題	(1) 検討会の進め方 (2) 現時点での企画提案内容の説明 (3) 質疑・意見交換
配付資料等の件名	・次第 ・ながふじ学府一体校建設検討会要綱 ・新たな学校づくり検討会かわら版 ・平成28年度ながふじ学府一体校等整備基本構想 ・検討会・ワークショップの開催予定日
【会議概要】 1. 開会 2. 各委員に委嘱状交付(教育長) 3. 教育長あいさつ ・他の市や町の人口が減ってきているなかで、ながふじ学府に一体校をつくれることは幸せであることを改めて実感している。 ・たくましく夢を持てる学校を大人である私たちがつくっていく必要がある。 ・地域とのつながりを継続させることは学校としての役割のひとつであり、教員や子供たちとのつながりをも含めて、人と人との関わりを大切にしたい。 4. 委員自己紹介 5. 経過説明 ・配布したかわら版を基に内容、スケジュール、設計事務所決定までの経緯を説明。(事務局)	

6. 検討会の目的

- ・計画を進めていく上での検討会での位置付けなどを説明。(事務局)

7. 会長及び副会長の互選

- ・検討会要綱第4条に基づき、会長および副会長を置く必要がある為、委員に意見を求める。事務局提案の発言を受け、会長を豊田中学校長、副会長をながふじ学府PTA保護者代表会代表にお願いしたい。(事務局)
 - 一同承認。
- ・これより会長が議長として検討会を進める。(事務局)
 - 会長よりあいさつ。

8. スケジュールについて

- ・提出資料を基に説明。建設検討会は基本設計段階にて全4回、ワークショップは全3回を予定。建設検討会は、「関係者の意見をまとめる承認する場」とし、ワークショップは「意見を吸い上げる場」として捉え、2つを連携、反映させながら計画を進めていきたい。(事務局)
 - 検討会で議論した内容がしっかりと計画につながるのか、意見を吸い上げただけでそれが反映されない計画とならないように進めてほしい。(委員)
 - 委員の意見を受けた上で、反映できるもの、できないものがあることについてはご理解いただきたい。各学校の教員意見も取り入れて計画を進めていく予定。(事務局)
- ・このようなご意見があるため、透明性について、情報公開の必要性があるのではないか。ワークショップで出た意見については、どのように対応したのかを次の検討会で事務局より説明するべきである。(委員)

9. 計画案について

- ・プロポーザル案および現時点での企画提案内容の説明。(設計者)

10. 質疑・意見交換

- ・屋外プールへのアクセスはどう考えているか。(委員)
 - 2階北側よりバルコニーを経由してプールへ行く計画としている。(設計者)
- ・生徒数が増減した場合についてはどう考えているか。(委員)
 - 多目的室やスペースをつくることで教室への転用が可能な計画としている。(事務局)

- ・エレベーターは校舎にないのか。(委員)
 - 給食の配膳およびバリアフリー兼用としたエレベーターを1基計画している。(設計者)
- ・上下足についてはどのように考えているか。(委員)
 - 基本構想の検討会では上足が前提で進んでいたと思うが、下足の要望があるのであれば、本来基本構想時点で決めておくべきである。(委員)
 - 高齢者は靴の履き替えが大変なため、地域連携室やメディアライブラリーなどは下足として欲しい。(委員)
 - 地域開放するエリアのみ下足にすることも考えられるが、生徒は上足で、地域の方々は下足というのではなく、統一すべきである。(委員)
- ・先ほど事務局から説明のあった工期は20ヶ月となっていたが、プロポーザル案で久米設計は16ヶ月ではなかったか。(委員)
 - 先ほど説明した20ヶ月は基本構想時点のものである。(事務局)
- ・豊田東小が来た時にはどの部屋を利用する予定か。(委員)
 - 1階ランチルームや2階多目的室を考えている。(設計者)
- ・配置の説明がないがどこまで決まっているのか。(委員)
 - 基本構想でグラウンド側に建てるという配置までは決まっている。(事務局)
- ・防災についてアリーナが避難所となると思うが、災害用トイレが1階の外部にあるのでは不便ではないか。(委員)
 - 指定避難所として、避難人員の設定は決まっているか。天竜川の氾濫より南海トラフ地震がくることを想定し、グラウンドを避難場所として避難訓練を行っている。2階に体育館があることが本当にいいのか。(委員)
 - 既存のマンホールトイレは移設して活用予定。1階には共同調理場や駐車場なども考慮し2階としている。(事務局)
 - 何を優先するかによって、今後の計画が変わる。体育館の接地性を優先するのであれば、それにより何をどうするかをあわせて議論していく必要がある。(委員)
 - 地域からすると避難所としての機能を優先したい。(委員)
 - 避難所として考えた場合、トイレは女性と男性の割合を1.5:1として計画して欲しい。(委員)
 - ワークショップでは子どもたちの視点と地域の視点が両立していけるように進めていくことが大切である。(委員)
- ・どういう一体校になってどうしていきたいか、ソフトを先に話し合うべきではないか。東小を含めて何ができるのか。(委員)
 - 基本構想2-2に東小との連携等に関してまとめている。(事務局)

- 東小だけでなく小中一体のメリットはどこにあるのか。ソフトがなさすぎて抽象的すぎるのではないか。(委員)
- 本来はソフトがあってハードとなるべき。現状としては後追いが多く、理想がそれであることは教育委員会も理解しているのでは。(委員)
- ランドデザインは出来ている。1年間かけて見直し、H33までそれで進めていくかは今後変わるかもしれないが、小中一貫教育は既に始めている。こういう学校にしていきたいといった考えも持っている。(委員)
- 具体的にどのようなカリキュラムを想定しているのか。一体校になるメリットが分からない。(委員)
- 基本構想の2-2、2-3に記載しているので確認して欲しい。(委員)
- ・現段階の計画は基本構想をもとにつくったものであり、新しくつくるものはどのようなものが必要か決めたいうえで設計に取り入れていくべき。それでないと設計も進めることができない。小人数学級や心のゆとりなども考え、コンパクトにしすぎて見直しが必要にならないように。限られた予算と面積で方向を決めていく必要がある。(委員)
- ・ワークショップのテーマについて先に委員が発言したことを踏まえ、地域開放について、学校教育の在り方についてもいれてはどうか。(委員)
 - 教職員とも話し合うべきである。(委員)
 - ワークショップの在り方を事務局で考えた方がよい。(委員)
- ・地域開放されるということがテーマに出ている。ワークショップでは、その内容についてもやってほしい。(委員)
- ・基本構想があるが、それをベースに古い校舎を建て替えるだけで同じものをつくっても何も変わっていかない。大人が子供を育てるということに立ち戻り、基本構想をもとに一体校で何ができるのかをもっと詰めて欲しい。(委員)
 - 検討会、ワークショップの他に教員とのヒヤリングも別途行っていき、計画に反映していきたい。(事務局)
- ・事例を元に一体校のメリットやデメリットについて説明を聞きたい。(委員)
- ・プロポーザル提案から現状の案はコンパクトになりすぎていて、多機能性や柔軟性が失われている。子どもが伸び伸びと過ごせる校舎、自発的に学べる空間などを考えたうえで案を見直していけるとよりよくなっていく。(委員)
- ・小中一貫校の良さを説明いただけないか。(委員)
 - 検討会にて紹介をしたい。(委員)

11. その他

- ・ 第 1 回ワークショップ H29 年 9 月 13 日 18 : 00～
- ・ 第 2 回建設検討会 H29 年 10 月 18 日 18 : 00～

12. 閉会